

令和6年9月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和6年9月25日（水） 午後1時30分～午後2時55分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	松宮 誠也
委員	兼子 貴絵
委員	前川 加奈子
委員	押谷 喜美子

4. 欠席者

なし

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤 正晴
次長	山岡 万裕
次長	高山 義雄
管理監兼幼児課長	為永 智子
教育総務課長	藤田 いずみ
教育改革推進室長	成田 健
教育指導課長	馬淵 康至
すこやか教育推進課長	森 靖
教育センター所長	杉本 義明
教育センター研究・研修室長	野村 由紀子
未来創造部次長	
兼未来こども若者局長	村崎 晴美
未来こども若者課長	小谷 勝也

未来こども若者課副参事	小川 智史
教育総務課長代理	野邊 誠
教育総務課係長	川瀬 奈津代
教育総務課主査	五十嵐 亮平

6. 傍聴者

なし

Ⅱ. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

案件なし

日程第 5 協議・報告事項

(1) 「(仮称)長浜市未来こども若者計画」の骨組みについて

(2) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について

日程第 6 その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

兼子委員、前川委員

3. 会議録の承認

8 月定例会

特に指摘事項はなく、8 月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

■教育長：

ジャック・アタリ著の「教育の超・人類史」を読んでいますと、15世紀にヨーロッパで印刷機が発明されたときの人々の声というのが書かれていましたのでこの場で紹介させていただきます。「多くの人々が印刷機という技術革新によって人々の記憶力は低下し、無教養で愚かな人間が増えると予測した」。この文について、今のICT環境におけるiPadについて「子どもにとってどうなのか」と議論しているものと似ているなと思いました。この500年前の人々の言葉に対して今の世の中の現状がどうかと考えますと、けっして無教養で愚かな人間が増えているわけではないので、人間の脳というのは、技術革新に順応していくのではないかと考えています。今日、教育委員のお手元に事務局からGIGAスクール構想の第2期に向けてという冊子を配らせていただきました。国を挙げてこのGIGAスクール構想を推し進めていく一方で、昔からの価値観等大事にしなければいけないものもあると思います。しかしながら、私たちは子どもの未来を預かっていますので、子どもたちを預かるというのは自分の価値観と未来と社会情勢をあわせもって子どもたちの教育について考えていかなければならないと、この本を読んで改めて思うことができましたので紹介をさせていただきます。

次に、9月議会の一般質問について報告させていただきます。ひとつは学校統合についてです。北部の学校を一つに統合してはどうかと北部の議員さんから提案がありました。教育委員会としては地域の方々の意見に対するこちらの考えもまだ決まっておきませんので、そのご提案に乗るといふ形は取りませんでした。子どもたちの将来や社会情勢を考えたうえでご提案をいただいたものと考えています。現在、適正配置・適正規模に係る協議会において長浜市の将来というものを議論しています。今後、協議会での提案を受けまして、来年度には新しい統合計画を作っていきたいと思っております。

最後に、各校園では運動会の練習が始まっています。炎天下が続き心配していましたが、今週から涼しくなってきましたのでほっとしているところです。教育委員の皆様にも運動会の視察をお願いしていますが、学力だけではなく体力や生きていく基となる子どもたちの生命力を感じ取っていただいき、引き続きアドバイスやご助言をいただければと思います。

5. 議案審議

案件なし

6. 協議・報告事項

(1) 「(仮称)長浜市未来こども若者計画」の骨組みについて

未来こども若者課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

■押谷委員：

1つ教えていただきたいです。中学生トーク、高校生トークに参加する児童・生徒というのはどのような方法で募集されたのでしょうか。

■未来こども若者課長：

中学生トークにつきましては、各中学校の校長先生に2人ずつ代表の生徒を選んでいただきたいとお願いしました。中学生トークは3回に渡りますので、学校によっては同じ生徒が毎回出席することが難しいため回ごとにメンバーが入れ替わっている場合もあり、結果延べ71人に参加いただきました。

高校生トークにつきましては、えきまちテラスの1階にサードプレイス、第三の居場所として *i t t e k i* を当課で運営をしておりますが、そちらを利用していただいている高校生の中から選抜し参加をいただきました。

■押谷委員：

高校生トークですが、*i t t e k i* の利用者の中から選抜とありましたが、選抜はどのようにされましたか。

■未来こども若者課長：

i t t e k i の中には高校生の声を聞く役割としてユースワーカーという職員が3名おり、毎日2名ずつを配置して高校生から様々な声を聞いて、何かやりたいことがあればそのお手伝いをするというような役割を担っております。そのユースワーカーが利用いただいている生徒にお声掛けをして、自分で興味を持ち立候補された生徒を選抜したものです。

■押谷委員：

高校生トークは、自分から自主的に参加したいという生徒が参加していただいてよかったですと思います。中学生トークのほうが、もう少し幅広く集められるとよかったですのかなと思います。というのが自分から手を挙げたということではなくて先生方の推薦なので、それもひとつの手法と思いますが広く募集するような形もあってもいいのかなと思いました。

■未来こども若者課長：

来年から「未来こども若者計画」を運用していく中で、もう少ししっかりと子どもと若者の意見を聞けるような仕組みを整えていきたいと思っており、その中では中学生の皆さんに対して「やってみたいという人はいますか」といった自分で立候補できるような機会を設けていきたいなと思います。

■押谷委員：

ぜひお願いします。

■前川委員：

いろいろな若者の声を集めるということで、市内の中高生だけではなく例えば長浜に移り住んできた若者や大学生等に対して、長浜の様子やどのようなことが充実していれば良いかという意見も聞かせてもらえるといいのかなと思いました。それと、サードプレイスの状況をお尋ねしたいのですが、利用者は大学生と高校生のどちらの利用が多いのですか。また高校生は、市内の高校によって利用者に偏りがあるのでしょうか。サードプレイスの場所は長浜駅前ということで長浜から北部の高校に通っておられる生徒にとっては通過点なのかと思いますが、例えば北部から伊香高校や虎姫高校に通っておられる生徒も足を延ばして利用されているのでしょうか。

■未来こども若者課長：

i t t e k i の利用状況ですが、現在利用者の約9割が高校生となっています。利用者の多い高校から、長浜北高校、長浜北星高校、虎姫高校、米原高校、伊香高校という順でして、学年で申しますと3年生の利用が今のところは一番多い状況です。高校によっては1年生が積極的に利用したりしており、徐々に口コミで利用状況が増えているといったことも感じています。市内の高校生は、約2,300人おられますが、i t t e k i の登録者数は600人を超えまして、非常にありがたいことに利用者数が伸びつつあり、積極的に利用いただいているような状況となっています。大学生についても一定の利用がありますので、利用していただく中で大学生の声なども聞いており、高校生と大学生と一緒にイベントを企画するような、交流も少しではありますが生まれているような状況です。

■教育長：

大学生の意見を聞くようなことも考えておられますか。

■未来こども若者課長：

大学生トークはまだ実施していないのですが、サードプレイスを利用いただいている方の意見は聞かせていただいております。今は仕組みとしてはありませんが、次年度以降に計画・運営をしていく中で、市内の大学生や、市内の高校から大阪や東京等の大学に出てしまった学生たちの意見も聞けるような仕組みを整えたいと思っております。

■松宮委員：

この計画を作るにあたって長浜市としての課題というのがあると思いますが、このミッション・ビジョンを設定するにあたってどういう問題があってそれをどのように解決していくのか、そういった根元の部分がこういったものなのか教えていただけますでしょうか。

■未来こども若者課長：

まず、一番の課題として捉えておりますのが若者世代の流出になります。昔で言いますと、

高校を卒業して一旦県外の大学に通って就職する年代になると長浜に戻ってこられるという方が一定の割合いらっしゃったのですが、近年は長浜に戻ってくる方というのが圧倒的に少なくなっており、それに対して非常に危機感を抱いております。それと子育てというカテゴリでいきますと、女性の就業率というのが年々高まっており、長浜市の待機児童は11人という数字がありますが、これは女性の就業率が高まったことにより、0歳・1歳からお子さんを保育所に預けて働きに行きたいというニーズの高まりによるものと思います。この計画を策定するにあたり子ども・子育てアンケート調査というものを実施しましたが、そこでニーズが非常に高かったのが、「一時的に子供を預けられる保育サービスを充実してほしい」、「待機児童対策をしっかりとしてほしい」、「保育時間の延長や休日保育というものを充実してほしい」というような声でありました。長浜市の子育て施策のメニューは先進都市に比べても引けを取らないぐらいのメニューの数がありますが、保護者の声としてはメニューを増やすだけではなく、今あるサービスの質をさらに高めて充実させていくという視点を取ってほしいというようなご意見をいただいております。

■松宮委員：

ありがとうございます。今おっしゃられたことが課題なのかなと思っています。ほかにもいろいろあるかと思いますが、こういった基本計画にありがちな何でもありみたいなことではなく、そういった長浜市の根本の課題に対して具体的な施策を考えていけるような基本計画としていただきたいというのが希望です。

■未来こども若者課長：

ありがとうございます。

■兼子委員：

中学生トークについて、去年ご報告してくださったときに「生徒会の子から選んだ」とおっしゃっていて、生徒会に選ばれる子というのは活発に意見を発信できる子だろうなと思ったりしますので、そうではない子たちの中にどういった意見があるのかというのを聞いてみることも大切で、声高に言わない子にどういった問題や課題があるのかを見てほしいなということ意見をさせてもらったと思っていましたので、今年も選ばれた子たちになったというのは少し残念かなと思いました。立候補制にするとなかなか手が挙がらないようなことが起きるのではないかと想像ができますが、「ハードルは高くないよ」、「決して勉強がよくできて意見が活発な子じゃないと出られないわけではないよ」ということを示してあげて、多様な生徒が参加し議論できる場になるともっと豊かな意見が出てくるのではないかと思いますので、ぜひ来年に期待したいなと思います。

■教育長：

i t t e k i を利用している高校生の中で、養護学校であるとか定時制に通っておられる

方もおられますか。

■未来こども若者課長：

今のところ、通信制の高校生が何回か訪れていただいています。

■教育長：

なかなか通学の関係で、養護学校や定時制や通信制に通われている方の利用を増やすことは難しいかもしれませんが、多様な意見を聞くということは大事なことなので、そのあたりにも周知を広げていただければと思います。

あともう一点、日本の子どもたちは「自分の意見で社会を変えられると思いますか」という問いに対して非常に低い数値を示しています。去年もお願いしましたが、例えば中学生トーク等に出てきた施策に近いことをぜひとも形になるように、そして自分たちの意見がこういった形になり、やってみただけこういった課題と成果が出たなど、まさに社会に参加して自分たちがその一員であるといったことが自覚できるような取組みができると非常にありがたいなと思います。

(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

教育センター所長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

■前田委員：

全国学力・学習状況調査の結果が分かりずいぶんたちますが、結果を今まで分析され、来年の4月にまたテストがありますが実践はいつされるのですか。本来はもう実践の真っただ中に入っていかなければならないと思いますが、一体どの時期に実践をして改善を加えるのだらうと思っています。毎年これですよね。今回も書かれている「各学校の課題を明確にして強みと弱みを分析しそれぞれの学校が取り組む」というのはいつ取り組まれるのですか。

■教育センター所長：

各学校からは、分析結果に対してこれからどのように取り組んでいくかという報告が私どものところにも上がっています。その内容を十分に見たうえで教育委員会や教育センターで各学校と話をさせていただき、個別具体的に学校ごとに助言をしていかなければならないと思っています。

■前田委員：

このことは、一体どこが中心になって取り組もうとしていますか。教育改革推進室なのか、教育指導課なのか、教育センターなのか、高山次長がコントロールタワーの役目、リーダーをやってくれているのですか。一体どこがどのような指示をして今年度の課題を基にどのよ

うに改善して取組みをやっていこうとされるのか、市としてはどういう方向で、各学校としてはどういう方向でやるということ、教育委員会のどこの誰が中心になって「これではまだ十分ではないな」、「これはもっと強くやらないといけない」などと判断したうえで、指示等をされているのでしょうか。

■高山次長：

関係各課が協力をしてさせてもらっているといったところなのですが、教育指導課については教員の資質向上の部分を担当するところ、教育改革推進室についてはその大きなビジョンを基にICTの部分とDXフェローとの細かな分析を学校に投げかけ問題意識を持って細かにプランさせるというところ、教育センターについてはそれぞれの分析に基づく今後の研修の部分を担当するところ、大まかに言いますとそういった分担をさせていただいています。ただ、それが縦割りにならないように連携をさせていただいて、今取組を進めていっているというようなところ。そういったところの集約という部分では、私を含め、それぞれの室長・課長・所長が具体的に進めているところで、自分の感覚ですが、具体的にそういうプランが後回しではなくて既に進められているかなと思っています。

■教育長：

そうすると、分析の後の取組みは既に各校で始まっているということですね。

■高山次長：

そうですね。各校に投げただけではなく各校の取組をしっかり見守っていくという姿勢は当然大事ですし、そこら辺の部分は課題意識を持ちながらやらせてもらいたいなと思っています。

■前田委員：

ここ3年間の結果を私なりに分析させていただくと、学年ごとの特徴や特性の範囲内で成績が上がり下がりしているだけであって、成績が本当に伸びているということではなくて、この学年の子は結構やるとかそういう範囲の中で推移しているだけだと思います。なので、本当に結果を上げたいのならば、もっと明確な取組みが出てこないといけないと思います。文部科学省、国立教育研究所などでは、いろいろな分析をして明確なもの出していますよね。学校現場のほうで既にやっているということならば、一度見させてほしいなと思います。

■高山次長：

今年一つ大きな動きを取らせてもらったと思うのが、DXフェローが示してくださった部分を、学校にそのまま研修という形で投げかけさせていただきました。そのうえで、長浜市の全ての学校の状況を見ていただき、他校と比べながらより自分の学校の状況がはっきりと分かるようにデータを提出してもらっています。そういういったことが、各校の強みと弱みをより明確に分析するきっかけになるのかなと思っています。その中で、基礎学力の部分

足りないという学校、それはもうできているから次のステップに進まないといけないという学校、そして委員がおっしゃっていただいたそれぞれの年度の集団の力の具合もあるでしょうが、それを学校として捉えていただくことができたのではないかなと思っています。そして、何年かの結果を比べ押しなべた時に成果が表れているかどうかというところは真摯に受け止めながら進めさせていただきたいと考えています。

■教育センター所長：

先週、浅井小学校で国語科の小学校教育研究会の国語部会と教育センター合同で国語科の授業研修をさせていただきました。分析をすることによって確実に授業改善につながる、そういったエキスを授業の中に入れていきたいと思いますといった考え方をとにかく学校の先生方に持ってほしいという思いがありますので、そういった意味で授業研修という部分に注目してこの全国学力・学習状況調査の中で得られたものを先生方に十分考えていただけるようにしていきたいと教育センターとして思っているということです。今、学校でやっていることをきっちり捉えて本当にそのやり方がいいのかどうか、そういう部分については、一緒に考えていく必要は絶対にあるだろうなということは思うところですので、できるだけ教育センターとしてもそれぞれの学校の授業研修を見させていただき、あるいは一緒にやらせていただくことで、考えていただく機会をたくさん作りたいと思っています。

■松宮委員：

ICTについてですが、長浜市は全国と比べて活用されているということなのですが、全国学力・学習状況調査の結果だけでいくと繋がっていないのではないかとこのように数字から出てきてしまうのですが、その辺はどのように教育委員会として分析されているのでしょうか。その結果から考えて今後もICT教育をどんどん進めていくべきと考えるのか、もう少しバランスを考えてやっていくべきかと考えるのか、そこら辺をどのようにお考えでしょうか。

■高山次長

ICT機器を使えば学力が上がると、こういった単純な構図ではないのだろうという風には捉えております。ただ、教育長報告でも話がございましたが、ICT機器を使うという流れについては、戻らないものだと思います。そういった部分で長浜市としては、ICT機器を使うこと慣れている子どもたちが育ちつつあることが一つの強みだと思います。これを使えば何でも学力が伸びるのではなくて、長浜スタイルの学校のロードマップにも書いていますように、効果的に使うということが必要である、そこについては授業改善において、アナログのよい場面もあるでしょうし、デジタルが有効な活用場面もあるでしょうし、そこについては引き続き検証する必要があるということです。

■松宮委員：

例えば、ICT教育の先進国の北欧のスウェーデンなどではICT教育を減らしていくという方向になっているようです。理由としては、国民の子どもたちの国語力が落ちてきて読解力が落ちてきているという分析になっているので、国として減らしていくという方向になっています。ノルウェーでもそういった動きになっているような話も聞きましたが、そう考えると、日本の場合はあと5年ぐらいで全体的な傾向などが分析され方向性を再検討されるのかもしれないと考えています。私もどちらかというとタブレットの見過ぎは文章を深く理解するという点においてはなかなか繋がらないのかなというような個人的な経験をもっています。今一步下がろうとしている諸外国、先進国もありますので、そういった情報も受けとめて今後の方針を練っていただければと思います。

■教育長：

ある新聞の社説には、社会経済力が低い子どもはやはり学力が低い、そういう子どもたちに対してどのように勉強や学力について目を向けさせるのかということ、やはりICTが有効であるということが書かれていました。ただし、その中にも今委員が言われたように教員の活用能力というのが非常に重要で、スウェーデンがどういったICTの使い方をしたのかは分かりませんが、うちはずっと長浜スタイルというICTを上手に組み合わせながら進めていくべく今研究をしてもらっています。そういうご意見やデータを基にしながら授業改善や学校運営を考えていかなければいけないと考えているところです。

■前田委員：

教科書採択で、デジタル教科書とアナログの教科書について、来年度からは中学校の英語と数学はデジタル教科書を入れるということで準備をされているようですが、これについて様々な見識のある方が賛否両論をおっしゃっており、思考力が落ちるのではないかなどの見解も見受けられます。私もこの時代の流れの中に立ってどうなのかという視点で考えないといけないと思うのですが、今スウェーデンの話でもデータが出てくると少し躊躇とところがあります。長浜市ではICT機器を盛んに使っていてありがたいというものの、ある段階で立ち止まって評価することが必要だろうなと思います。特に全国学力・学習状況調査の結果では書く力が落ちてしまいましたよね。そろそろ、デジタル機器を使っている子がどれだけの思考力で考えることができるのかどうかといった糸口で長浜らしくそこへ切り込むことを考える時間をもっと大事にしてこのような分析をしないと、今の松宮委員のお話の中でもありましたが危険な部分もはらんでいると思います。逆にICTを活用する一方で、長浜市としては書かせることは重点的にやると提言されるなど、しっかりとしたかじ取りをする時期に来ていると思います。

■押谷委員：

教育ICT情報サイトの中ではICT活用率が高くて先進的な取組をしている市として長

浜市が掲載されていまして。これを見て他市から視察など来られていますか。

■教育指導課長：

1学期に県内の自治体からロイノート等こういったアプリを入れたらいいのかということで県内の先進地ということで長浜市を見に来ていただき、市教委でいろいろとご説明させてもらった後、小学校と中学校に視察に出向いていただきました。

■押谷委員：

全国の中でも、長浜市は先進地になっているのだなと思ひまして、全国的な課題としてICTを活用しているところとしていないところの差が顕著になっているということがありますが、そういう意味では、長浜市では活用がこんなに広がっているというのはすばらしいところだと思います。私自身、タブレットは使うことが目的ではなく学ぶためのツールだと思っています。このことを知るためには、タブレットと本を選びながら使用していくと良いのかなと思います。また今、書くことの力が弱いということですが、例えばタブレットで調べたことや得た知識を紙に書くといった内容の作業を授業に入れていくことで書く力がついていくのではないかと、皆さんのお話を聞いて思いましたので、そういう工夫などもできていくといいなと思いますし、そういうことが大事かなと思ひました。

■教育長：

例えば、書くことについて現在授業の中でどうやって取り入れているのですか。

■教育指導課長：

小学校においては、学校の取組として100文字作文などといった取組をされている学校が多くあります。中学校においては、そのような取組をしているのかということは把握していませんが、各教科においてICTを使うことにより全く子どもたちが書かないかというところというわけではありません。当然調べたものをまとめることや、タブレットを使って自分で文章をつくるなどもしておりますし、意見のやり取りの中で自分の思いをまとめたりもしています。そういう意味ではノートに書く部分をタブレットで書き込むという形に中学校でも、大きく動いているのかなと思っています。

■教育長：

この間、学校を回ったときに100文字作文があと二、三行残っているのに二重丸をして掲示されており、形骸化している可能性はあると思います。例えば、このような議論を職員室で出来ているかという話です。担任の一人一人がこのことの大事さ有効性など、ICTも含めて、こういった話を雑談でも良いのでやっていただきたい。それを、校長が理解している学校はICTの活用がどんどん進んでおり、教育長や教育委員会が言っているからという学校は進んでない。年度が変わったら、またゼロに戻ってしまうというのがよくある光景ですので、このことを教育委員会の一つの課題として取り組んでいきたいと考えています。

7. その他

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。